

2020 年度（令和 2 年度）

# 事業計画書

2020 年（令和 2 年）4 月 1 日



## 2020年度（令和2年度）の主な事業

### I. 法人

#### 1. 法人の取り組み

##### (1) 100周年記念事業の推進

###### ① 周年事業

本学園100周年事業のコンセプトを決定し、100周年事業に係るシンボルマーク制作、マスコットキャラクター制作、100周年キービジュアル制作、100周年特設WEBサイト開設などを実施し、学内外に学園100周年の周知を図ります。

###### ② ブランディング事業

ブランディング事業の目的を学内関係者に理解してもらい、スローガン「ベスト MAX～ Let your potential blossom～」を学内に浸透させるための施策を実施します。

###### ③ 寄付事業

学園の更なる発展に寄与すべく、個人・法人を対象とした寄付金募集活動を継続して実施します。また、寄付募集の新たな取り組みとして、遺贈寄付制度等を導入します。さらに、寄付金を活用した100周年記念留学給付奨学金を開始します。

###### ④ その他事業

本学園で実施している公開講座や各種イベントを、梅村学園100周年記念事業の一環として実施します。

##### (2) 学園史編さん

学園創立100周年記念事業の一環として、一世紀に及ぶ学園各校の足跡を改めて調査し、詳細な歴史を残す学園史の編さんを進めています。2023年度（令和5年度）の刊行を目標に、「通史編」と「資料編」の2部構成でまとめる計画となっています。

##### (3) ガバナンス改革

2020年（令和2年）4月に策定した「第1期（2020年度-2023年度）中期経営計画」を推進し、「日本私立大学連盟 ガバナンス・コード（第1版）」で定められている「基本原則」を遵守すべく、自律的な法人運営及び情報公開を行います。

##### (4) 監査の実施

私立学校法改正（令和2年4月1日施行）及び民法改正（債権関係）（令和2年4月1日施行）を踏まえ、経営面、教学面を含む学園のガバナンスの点検を行うなど、監査体制を充実させます。

その中で特に内部監査室では、規程及び契約書の整備状況の観点から、各部門の業務監査を行います。

また、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」を基準に、2019年度（令和元年度）執行の公的研究費について監査を行います。

常勤監事を通じた監事と内部監査室との日常的な連携を保ち、また、監事、公認会計士及び内部監査室の三様監査の実質化を図るため、情報交換を適宜行います。

## 2. 財務

収入面では、学納金のみに依存しない財政構造の構築を図るため、引き続き 100 周年記念寄付金の募集、補助金の獲得に注力し、収入の多角化を推進します。

支出面では、費用対効果を重視した予算編成としつつ、学生募集のための予算について重点的に配分します。また、豊田キャンパスの施設整備計画を進めるとともに、今後の施設等の更新に備え、減価償却引当特定資産の積み増しを実施します。

## 3. 施設・設備

### (1) キャンパス整備計画

#### 【中京大学】

名古屋キャンパスは、14 号館研究棟の空調設備を 2020 年度（令和 2 年度）から 2 年間で全面的に更新します。また、豊田キャンパスは、大講義室と多目的スペース、屋内直線走路を併設する新 6 号館の新築工事と 15 号館の改修工事を実施します。

#### 【中京大学附属中京高等学校】

安心安全な学校づくりの一環として、国の補助金制度を活用し体育館の特定天井工事を行います。

### (2) 設備整備

#### 【中京大学】

- ・ 学内の無線接続環境の増強を目的に Wi-Fi 関連設備の工事を行います。
- ・ 学生が携帯する個人用ノートパソコンから容易に印刷可能な印刷管理システムを導入します。
- ・ 2014 年度（平成 26 年度）に導入し、6 年が経過する機器保守契約を延長できない教学サーバ群をクラウド化して更新します。
- ・ 2020 年（令和 2 年）12 月に保守期限を迎える入試システムのサーバ機器をクラウド化して更新します。
- ・ 全教室のデジタル化に向け、AV 機器の更新を継続します。2020 年度（令和 2 年度）は、825 教室などの豊田キャンパスを中心に実施する予定です。
- ・ 国際学部開設によって本格稼働となる 16 号館において、各種機器を整備します。
- ・ 最新機器を用いた授業を展開するため、スポーツ科学部、工学部、心理学部などで教育用機器を新たに導入します。

## 4. 人事

### (1) 人事計画・組織改編

#### ① 教員

学部学科の新設や組織改編等に当たり、設置計画に基づいた確実な人員確保を行います。なお、NEXT10 の新教員人事制度検討プロジェクトにおいて、今後採用する専任教員（教授、

准教授、講師)を対象とした新しい人事制度の導入を検討します。

附属高校においては、教員の働き方改革への対応を進めます。

## ② 職員

長期的に学園の定型業務を担う特定業務職の採用を積極的に行い、制度の浸透を図りながら、行政本部における事務組織体制と定型業務の安定化を図ります。また、障害者雇用促進法の趣旨に則り、障害者の採用を積極的に行います。

## (2) 教員業績評価制度の導入

専任教員(教授、准教授、講師)が自らの責務を認識し、自己の業績を深く省察して、更なる研鑽に繋げるため、NEXT10の新教員人事制度検討プロジェクトにおいて教員業績評価制度の導入を検討します。

## (3) SDの推進

専任教員にはFD以外の内容に関する研修の実施、行政職には本来業務に直結する課題解決力の向上、定型業務を担う特定業務職には事務スキル向上と業務改善を中心としたSDを推進します。

## 5. スポーツ

### 【中京大学】

- ・ 有望選手獲得のための推薦枠及び奨学金制度の見直しを行います。
- ・ 競技と学業を両立できる環境の再整備を行います。
- ・ 産官学連携による大学スポーツを核とした地域コミュニティの形成に取り組みます。

### 【中京大学附属中京高等学校】

- ・ 中京大学との人的交流、施設相互利用など高大連携による選手強化に取り組みます。

## II. 大学

### 1. NEXT10の推進

学長会議の下、2019年度(令和元年度)に選定した24の重点施策について、各施策の担当役員を中心として全学的に推進します。

### 2. 認証評価

2021年度(令和3年度)に受審予定の認証評価に向けて、各部局で作成した報告書のドラフトを取りまとめた上で、全学報告書の作成を行います。また、報告書作成時に表面化した課題について、教育質保証会議が中心となり改善活動を推進します。

### 3. 教育

#### (1) 教養教育の改善・改革

専門教育とならび学士課程教育の柱である教養教育の更なる充実を図るため、2022年度施

行を目指して全学共通科目の刷新を計画しており、2020 年度においては各学部と協議しながら成案を固めます。新カリキュラムでは、段階的・発展的な学びの内容と対話的な学びの手法を通じて、「どのような時代に生きているのか」そして「どのように生きるのか」を学生自身が理解・考察・実践するための教育を組織的に行います。

## (2) 成績評価基準の明確化

「基礎科目」「基幹科目」を中心に専任教員の1セメスター1科目以上のルーブリック作成、ルーブリックを題材にした学部内 FD、学生へのルーブリック活用方法周知施策とそれに関連したヒアリング、運用システムの仕様などについて検討・進行します。

## (3) ポートフォリオ

昨年に引き続き、教育の質向上のための実行プラン策定ワーキンググループにおいて、ポートフォリオシステムの実施目的の明確化に向けた検討や多岐に渡る課題の整理を進め、全学的な理解促進のための情報共有を図ります。

## (4) FD 推進

アクティブ・ラーニングのさらなる推進に向け、実践形式のワークを取り入れたセミナー、内容を充実させたワークショップを展開し授業改善に役立てます。なお、セミナーについては次年度に向け受講対象拡大の検討を進め、ルーブリックについては昨年度の実績を参考に改善を図ります。

## (5) ICT 教育の推進

パソコンを活用した授業科目を増加させるために、教員・学生にアンケートを実施し課題を抽出します。また、教員の ICT 活用を支援するために、CHUKYO-MaNaBo の活用や ICT 教育に関する FD セミナー等を開催します。

## (6) ゼミナール・卒業研究の重点化

各学部における現状の把握を進めるとともに、4 年次ゼミの必修化またはその代替手段に関する意見交換、卒業論文・卒業研究に関する審査基準（ルーブリック）の内容・要素等の具体的検討、卒業研究発表会等実施に関する全学的な方向性確認などについて進行します。

## (7) 学士課程教育における設置科目総数の適正化

各学部において、カリキュラムの体系性・順次性の点検（カリキュラムツリーの検証）、カリキュラムの在り方（主要科目を中心としたコアカリキュラムの構想）に関する意見交換、授業効果を高めるクラス設定などについて検討・進行します。

## (8) IR 推進

学長会議の下に置いた IR 推進ワーキンググループを通じて、IR 環境整備を継続します。データ活用ルール理解浸透を図るとともに、教職員の IR 意識を高めるためファクトブック

ビジュアル化を検討します。また、データ利活用の協働機会を創出することで、学内連携体制の強化を図ります。

#### (9) 他大学との教育連携

名古屋六大学（名古屋大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、南山大学、名城大学、中京大学）の大学間で教育上の連携を実現すべく、連携大学間で検討を重ねます。

### 4. 研究

#### (1) 科研費申請・採択数の増加へ向けた取り組み

科学研究費助成事業の応募件数を増やすため、説明会の回数や実施時期について再検討を行います。また研究計画調書の作成に当たっては第三者による調書の確認体制を整備し、読みやすい調書づくりを支援することで採択に繋がります。

#### (2) 研究支援体制の整備

産官学連携活動に係るリスクマネジメントを行うため、必要な規程や様式の整備を行います。また、研究成果として創出される知的財産を活用するため発明委員会を設置し、適切な管理体制を構築します。

#### (3) 若手研究者育成制度の強化

若手研究者を育成するための制度構築の一環として、本学の大学院生が研究を進める上でインセンティブを受けるような研究奨励制度を検討します。

### 5. 大学院

#### 人文社会科学系大学院の再編

既存の人文科学及び社会科学系の研究科を改組し、新たな研究科を設置する計画を推進します。具体的には、2021年（令和3年）4月に文部科学省に事前相談書類を送付することができるように、養成する人材像、3つの方針、教育課程（科目名・科目担当・科目概要）等の検討を教職員協働によるプロジェクトで実施します。

### 6. 国際化

#### (1) 海外留学・研修派遣の拡大

- ・ 短期の語学研修プログラムの拡充を行うとともに、中期語学留学プログラムの運営体制の見直しを図ります。
- ・ 中期海外インターンシッププログラムの運営体制を強化します。
- ・ 長期正規課程留学の運営体制の改善を図ります。

#### (2) 海外留学支援のための環境整備

- ・ 海外留学・研修プログラムに対する奨学金制度の充実化を検討します。
- ・ 留学アドバイザーやバディの活動を支援し、英語学習や海外留学を促進するイベントを企

画・開催します。

- ・ 英語学習や海外留学を希望する学生が活用しやすい情報の発信を強化します。

### (3) 留学生の受け入れ促進とキャンパスの国際化の実現

- ・ 留学生と日本人学生が共同生活を行う混住型学生寮の整備を検討します。
- ・ 英語による授業のみの学位課程や英語による教育プログラムを拡充します。
- ・ 入学前に渡日を必要としない渡日前入学制度の推進を図ります。

## 7. 学生支援

### (1) 高等教育無償化への対応及び奨学金制度の見直し

高等教育の修学支援新制度の説明会を新規・予約別に行うとともに、授業料減免に係る学内手続きの効率化を実現します。また、2021年度（令和3年度）以降における中京大学給付奨学金の運用を見直し、新たな支援制度創設に向けた検討を実施します。

### (2) 障害を持つ学生への対応

既存の学生相談センターに障害を抱える学生や様々な要因で支援を必要とする学生が気軽に入室できる「修学支援センター（仮称）」を新たに設置します。設置することによって、ボランティア活動を志願する学生が参加しやすい環境を整備します。

### (3) 文化会・体育会活動の活性化

文化会では会則の整備、リーダーズキャンプの実施、他大学交流を行います。体育会では、課外活動を安心・安全に行うため指導者研修や環境整備などを行います。また、課外活動場の施設・設備等の整備や活動費の支援を行います。

## 8. キャリア教育・支援

### (1) キャリア教育の充実

現在開講しているキャリア形成科目に加え、2020年度（令和2年度）より、文学部に「キャリアデザイン」（1年次秋学期必修科目）、経済学部「キャリア・マネジメント入門」（1年次秋学期必修科目）を導入し、全学部で必修科目としてキャリア形成科目を履修できる体制を確立します。

### (2) キャリア支援体制の強化

#### ① 就活手帳・就職情報誌の作成

社会人としての基礎的なスキルであるスケジュール管理の大切さを意識づける目的で、就活手帳を作成します。また、就職先や就職活動を進める上で必要な項目を掲載する就職情報誌を作成し、職業選択の幅を広げるツールとして役立てます。

#### ② 卒業生によるキャリア形成支援

校友会本部と連携し、卒業生が在学生に対して支援できる体制を構築して新たなイベントを開催します。社会で活躍する卒業生から業界の仕組み、将来性、仕事内容、やりがいなど

について講演いただく機会を増やすことで、学生の職業的・社会的自立をより一層支援します。

### ③ 業界研究イベントの開催

現在、秋に開催している業界研究セミナーに加え、6月から7月にも業界研究に関するイベントを新たに開催します。低年次生も参加可能とし、学生が早期に業界や仕事への理解を深め、将来について考える機会を提供します。

### ④ 障害を持つ学生へのキャリア形成支援

学生相談室、学生相談センター及び外部専門機関と連携し、様々な障害を持った学生のキャリア形成を支援する体制を構築します。

## 9. 学生の受け入れ

### (1) 入試改革

高大接続システム改革に基づき、高大接続入試の拡充をはじめ、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）との整合性を図り、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に即した実質的な入試選抜方法の検討を継続して進めます。

### (2) 学生募集

アドミッション・ポリシーを理解した志願者及び入学者の確保に向け、更なる募集活動に取り組めます。具体的には、①高大接続改革に伴う本学の入試改革の広報、②学部改組を実施するスポーツ科学部の広報、③受験アプリやバナー広告など SNS を利用した募集活動、④高大連携イベント、オープンキャンパス、高校訪問等の直接的な募集活動に取り組めます。

また、入学者を継続的に確保していくために、中京大学のブランド力向上のための施策実行とともに、入試成績優秀者奨学金の見直しや地方出身者を獲得する施策などを検討していきます。

### (3) 広報活動

知名度・好感度・ブランド力において中部地区私大No.1を目指し、積極的・効果的な情報発信を行います。情報公開など社会的な責任を十分に果たし、不測の事態に的確な対応ができるよう危機管理広報を引き続き強化していきます。また、開催の延期が決定された第32回オリンピック競技大会（2020/東京）、東京2020パラリンピック競技大会における在学生や卒業生の活躍にスポットを当てた広報活動を展開していきます。

## 10. 社会連携

### (1) 産官学連携の取り組み

豊田市高等教育活性化推進プラットフォームにおいては、第2期（2020年度～2021年度）中長期計画を推進し、豊田市の地域課題を解決するための取り組みを継続することで、私立大学等改革総合支援事業（タイプ3「地域社会への貢献」）の選定を目指します。



Tongali プロジェクト（東海地区の国立大学による起業家育成プロジェクト）においては、本学の学生がアイデアピッチコンテストやビジネスプランコンテストなど同プロジェクトが主催するイベントへ参加する機会を増やすため、学内への周知を行います。

## (2) スポーツを通じた社会連携と地域活性化

### ① 学内組織横断的な地域貢献活動を推進

各種スポーツスクールの開催、指導者や派遣測定事業の体系化を図り、愛知県内のユース・ジュニアアスリートへの継続的支援体制の強化を推進します。

### ② スポーツを通じた地域活性化

「中京大学子どもスポーツフェスタ」の継続開催と各種スポーツスクールの実施により地域におけるスポーツ実施機会の向上に取り組みます。

### ③ 地域スポーツの質的向上

豊田市教育委員会と連携し豊田市内の小学校におけるかけっこの授業導入に向けたトライアルや中京大学スポーツミュージアムへの市内教育機関の社会見学誘致などを実施し、地域スポーツの質の向上に取り組みます。

## 11. 卒業生連携

### 卒業生と在学生の連携推進

「校友会」から在学生に対する支援の一つとして、県別の在学生組織である「県人会（仮称）」の設立へ向けた試みを実施します。選定した3つの都道府県校友会支部との交流を試験的に開始し、将来的には、これらの運用経験を元に「県人会（仮称）」の活動を広め、全国の校友会支部との連携を図ります。

## 12. 管理運営

大規模災害への備えとして、従来の昼間の防災訓練に加え、夜間防災訓練を行うための実施計画を策定します。また、既定のBCP（事業継続計画）をもとに机上訓練を行います。加えて、海外危機管理マニュアルや危機管理関係規程に関しても点検し、必要に応じて見直しを図ります。コンプライアンス対応に関しては、教職員が遵守すべき重要な法令、学内規程を抽出すると同時に、その周知計画を作成します。

## III. 高等学校

### 1. コース及びクラス編成

コース及びクラスの現状把握のため、入試データ、学業成績、進学実績等各種データの分析を行います。コース及びクラスの特徴をより明確にし、各コース及びクラスで設定した目標を達成するため、分析したデータを基に入試制度をはじめとする各種制度を見直します。

### 2. 教育課程

各教科に教育課程検討プロジェクトを設置し、2022年度（令和4年度）施行の新学習指導要領に沿った魅力ある教育課程について検討します。

### 3. 国際化（グローバル教育の推進）

現在、St. Andrews Regional High School（カナダ）、ForestHills High School（アメリカ）の2校との提携協定締結に加え、漢西高校（韓国）と交流プログラムを実施しています。海外提携校との連携強化を図るとともに、長期留学制度等の導入を検討します。

また、グローバル教育の推進を踏まえ、修学旅行の名称を「Chukyo Global Study Tours」に改め、国際コースは8週間のオーストラリア語学研修プログラム、進学コースは目的別にハワイ、シンガポールを行先とした海外研修プログラムを実施します。

### 4. 生徒支援

#### ・組織的な授業改善アンケートの実施

学習支援ツールを活用した全生徒に対する授業改善アンケートを実施します。アンケートは全授業共通のアンケートフォームに加え、生徒の個別コメントも入力できる形として実施し、クラス毎の集計結果を全教員が確認できるものとします。結果を基に全体・個別の対応を考えると同時に、その結果を全教員が授業向上に活かす体制を整えます。

#### ・奨学生制度の充実

現在、「スポーツ奨学生」（推薦入試合格者で、運動技能に特に優れた者を入試判定結果等で選考）及び「学業奨学生」（一般入学試験合格者のうちの成績優秀者（入学試験得点上位10%程度）から、入学試験結果と書類審査等により選考）の二つの奨学生制度が導入されています。

更なる生徒支援の強化と進学実績の向上のため、最難関大学合格者を対象とした新たな奨学金制度を導入します。

#### ・進学サポート体制の充実

東京大学、京都大学等の最難関大学を志望する生徒を支援するため、進学サポート体制をより一層充実します。最難関大学の受験に精通した教員による特任チームを編成し、合格に向けたきめ細やかな教科指導を行うとともに、最難関大学を志望する生徒専用の学習スペースを設置するなど、ソフト・ハードの両面から合格に向けた万全のサポート体制を整えます。

### 5. 施設・設備

安心安全な学校づくりの一環として、国の補助金制度を活用し体育館の特定天井工事を行います。

### 6. スポーツ

競技実績の更なる向上を図るため、進学コース内にあるスポーツクラスの在り方や競技力の高い生徒募集について検討します。